

## 《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例No. 32

区分 標準予防策

### 【質問】

①手洗いシンクの水はね、②器材の洗浄後の置き場所、③器材洗浄用のスポンジやブラシの管理といった、水周りの環境整備について具体的な方法を教えてください。

### 【回答】

① シンク周りの水はねをそのままにしておくと、グラム陰性桿菌の温床になるということが知られています。手洗い時は、水のはね返りやシンクへの手の接触により、洗った手に微生物が付着する可能性が考えられます。そのため、シンクの汚れを取ってできるだけ乾燥させることが重要です。シンクの洗浄を1日1回は行い、水が周りに溜まっている場合は適宜拭き取るように取り決めをされてはいかがでしょうか。手洗いを行えば水のはね返りがあり、これを防ぐことはできませんので、乾燥させるというのに労力を使わなくても、通常の清掃で十分です。そして、シンク周りの汚染は完全に除去することができないことを理解し、手洗い時は、シンクに手がつかえないように注意することを職員間で周知徹底していくことも必要となります。

② 洗浄後の器材は、シンク周囲の洗い桶に入れたままの状態では、再汚染する可能性が高いと考えられます。また、蓋付きの容器にそのまま入れるのでは、乾燥に時間がかかってしまいます。たとえば、乾燥器を設置し、早々に乾燥させて棚に片付けるといった運用にすることは可能でしょうか。器材洗浄後は乾燥させて速やかに片付けることを心掛けてください。

③ スポンジやブラシは、その構造から、洗浄や消毒を行うことが困難です。汚染の程度は、それらの用途、頻度、使い方で変わりますので、一概に交換時期を決めることができません。汚染されているものと考えて、十分なすすぎと乾燥を行ってください。見目で汚染されていると感じたら、交換してください。業務の手順として交換時期を取り決めたいということであれば、1週間とされるのもよいと思いますが、その間に汚染や破損があった場合は交換するようにします。

《参考文献等》

1) 洗浄用スポンジによる医療機器器材洗浄，医療関連感染，2008(P22-24)